

1 単元名 「地域の活性化を促す『マス釣りプロジェクト』」

2 単元目標

○地域の現状や課題について調査し、情報を整理・分析することができる。また、調査結果を基に、活動の計画や準備を行うための基礎的な技能を身につける。 (知識・技能)

○地域課題の解決に向けて、自分たちにできる取り組みを多面的に考え、根拠を元に判断することができる。また、話し合いや発表を通して、自分の考えをわかりやすく表現することができる。

(思考力・判断力・表現力)

○地域や社会に関心を持ち、課題解決に向けて意欲的に学習に取り組むとともに、仲間と協力し、役割に責任をもって活動しようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、地域の活性化を促す『マス釣りプロジェクト』をテーマに、身近な地域の良さや課題に目を向け、実社会と結びつけながら学ぶことをねらいとする。本校は山間部に位置し、自然に恵まれている一方で、過疎化や若年層の流出、働く場の減少といった地域課題を抱えている。これらの課題は、生徒自身の将来や地域の持続可能性に深く関わる重要な問題である。これらの地域課題を自分事として捉え、自分たちにできる取り組みを考えることで、主体的に問題解決へ向かう力を育てることができる。また、「地域を活性化するにはどうすればよいか」という問いから、キャンプ場・カフェづくりと、その一環としての「マス釣りプロジェクト」を企画・運営する。そして旧中学校の施設利用の活用や、地域の人や専門家と関わりながら学ぶことで課題解決に向けた探究的な学びを深めることができる。

(2) 生徒観

本校は小学部（G1～6）と中学部（G7～9）を合わせて全校児童生徒89人の小規模校である。そのうち約40名の児童生徒は、特認校制度を利用して天理市各地からスクールバスを利用して通学している。また約30名の児童生徒は福住地区に移住してきた家庭の出身である。そして約30名が古くから福住地区に居住している児童生徒になる。

小学校と中学校が統合された2021年度から本校独自カリキュラム「福住学」が始まった。この取り組みは2021年から2年間に渡る取り組みである。当時の生徒の中に釣り好き・生き物好きの生徒がおり、また福住地区に居住している生徒が多く在籍していたため、地域の過疎化や働く場の減少などが現実的で、自分たちの将来の地域像をリアルに想像することができた。「福住地区にコンビニが欲しい」という生徒の思いに象徴されるように、地域の将来を自分たちの生活と結び付けて考えようとする意欲が見られ、夢や希望をもって地域づくりを考えることができる集団である。

(3) 指導観

本教材は、生徒が自分たちの地域の良さや課題に目を向け、その理由を考えることから始まる。過疎化や地域の働く場の減少といった課題に対して、「自分たちに何ができるのか」を生徒自身が考

え、実現可能な方法を選択し、実践していく点に教材としての価値がある。

学習の中では地域活性化のアイデアとしてキャンプ場づくり、カフェの設置、旧中学校のプールを活用した釣り場づくりなどの案が出された。その中から、現実性やコスト面を考慮し、生徒同士の話し合いを通して「マス釣りプロジェクト」を実施することが決定した。この過程を通して、課題解決に向けて条件を整理し、最適な方法を判断する力を育むことができる。

実践段階では、生徒は6つの班に分かれて活動を行った。広報班はホームページやポスターを作成し、情報発信の方法を考えた。エサ班は、マスに適したエサの種類や原価を調べ、販売価格を検討した。マス班は養鱒場と連絡を取り、水質や水温の調査を行うなど、生物や環境に関わる学習を進めた。釣竿については、山に入り竹を切り出し、手作りの釣竿を製作するなど、地域の自然資源を生かした活動を行った。料金班は近畿地方のマス釣り場の相場を調べ、自分たちの活動に合った料金設定を考えた。水源班は山中の水源を探し出し、そこからプールへ水を引く方法を検討・実施した。

各班はToDoリストを用いて進捗を確認し合いながら活動を進め、協力して一つの目標に向かう経験を積んだ。寒い冬の時期ではあったが、試行錯誤を重ねた結果、実際にマス釣りを実施することができ、生徒にとって大きな達成感を得られる学習となった。

本教材は調査・計画・役割分担・実践という一連の流れを通して、地域課題を自分事として捉え、仲間と協働しながら課題解決に取り組む力を育てることができる教材である。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【多様性】

様々な立場や考えを生かしながら計画を進めた。活動版を6班に分けることで多様な考えを尊重できる。また地域や立場の異なる人と関わることで、様々な考えや強みがあることに気付くことができる。

【有限性】

新たな施設を作るのではなく、既存の施設を活用する。資源や費用、環境への負担の軽減。限りある資源を大切に活用する。

【連携性】

班ごとに役割を分担し、互いに情報を共有しながら協力して活動を進めた。また養殖場と連携したことで専門的な知識や助言を得ながら計画を立てることができた。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

1 未来像を予測して計画を立てる力

地域の将来像を想像し、その実現に向けて条件や影響を考えながら計画を立てる。

2 コミュニケーションを行う力

話し合いや役割分担、ゲストさんとの関わりを通して、自分の考えを伝え、他社の意見を尊重しながら協働するコミュニケーション能力を育成する。

3 つながりを尊重する態度

地域や仲間との関わりを通して、さまざまな人・地域・自然とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。

- ・この学習で変容を促すE S Dの価値観

【人権文化を尊重する】

- ・異なる学年の生徒同士が意見を尊重し合いながら協働する学習を通して、人権を大切にできる態度を育むことができた。また、地域の歴史や自然、旧中学校の施設を理解し、その価値を活かそうとする活動を通して、地域文化を尊重する意識を高めることができた。

【幸福感に敏感になる。幸福感を重視する】

- ・仲間と協力して地域のために行動する経験を通して、達成感や自己有用感を味わい幸福感を高めることができた。また、地域とのつながりを実感することで、安心感や将来への希望をもつ学びになった。

- ・達成が期待されるSDGs

目標11 住み続けられるまちづくりを

目標15 陸の豊かさを守ろう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 地域の自然環境や産業、人口構成などの特徴や課題について調べ、地域活性化に関わる基礎的な知識を身に付けている。 2 調査や実践に必要な情報を収集・整理し、活動に生かすための技能（調べ方、記録、ICTの活用など）を身に付けている。	1 地域の課題を踏まえ、「自分たちにできること」という視点から解決策を考え、実現可能性や条件を整理しながら判断している。 2 話し合いや発表を通して、自分たちの考えや計画、実践の成果や課題を、根拠をもって分かりやすく表現している。	1 地域の課題を自分事として捉え、解決に向けて意欲的に学習や活動に取り組んでいる。 2 仲間や地域の人と関わりながら、役割を自覚し、協力して活動を進めようとしている。

5 単元の指導計画（全20時間）

次	学習活動	○学習への支援	評価（△）
1	1 福住地域のいいところと課題を考える。	○ 環境のこと、年齢層のこと、若い人のこと、いろいろな視点から考えさせる。 (ワークシート)	△ア①② (知・技)
2	1 課題の中から、「福住の人口を増やすために、どんなことをすればいいのか、どんなものがあればいいか」また、「使われなくなった中学校をどう使っていけば	○ 旧中学校のプールを再利用し、今流行りのマス釣り場をするときの、メリット・デメリットも考えさせる。 ○ 計画を進めるにあたり、必要な役割を考	△イ① (思判表)

3	<p>いいか」を考える。</p> <p>2 必要な役割を決め、その分野の現行を現行を調べる。</p> <p><班別活動></p> <p>1 それぞれ自分たちの課題を見つけて取り組んでいく。</p> <p>①広報班</p> <p>1 マス釣りのHPを作る</p> <p>2 釣りを広めるポスターの制作。</p> <p>②エサ班</p> <p>1 マスを釣りやすいエサを調べて考える。</p> <p>2 1回のエサの量と価格を考える。</p> <p>③マス班</p> <p>1 プールに対してのマスの量、水温や気温を調べる。</p> <p>2 マスの業者さんと連携。</p> <p>④釣り竿班</p> <p>1 森へ行って細い竹を切ってくる。</p> <p>2 糸と針をつけて、釣りやすい竿を作る。</p> <p>⑤料金設定班</p> <p>1 自分たちの価格設定をする。</p> <p>⑥水源・プール班</p>	<p>え比較させる。</p> <p>○ 6つの班に分かれ探求していく。</p> <p>○ 今あるマス釣り場のHPやチラシを参考にし、地域の方に広まるよう考えさせる。</p> <p>○ お金をかけられないので無料でできるHP作成サイト(Wix、AdobeExpress)で作る。(QRコードも)</p> <p>○ 高額なエサは買えないため、低価格に済ませるために、どんなエサにすればいいか考えさせる。</p> <p>○ 他のマス釣り場の価格と比較し、学校でできる価格設定を考えさせる。</p> <p>○ 養鱒場との連携で、価格やマスの取扱いについて考えさせる。</p> <p>○ 価格の交渉。</p> <p>○ 人が使うことを考え、人に優しい仕上がりになるように工夫させる。</p> <p>○ 他のマス釣り場の価格と比較し、学校でできる価格設定を考えさせる。(小学生にも来てもらうことも考えて)</p>	<p>△イ② (思判表)</p> <p>△ウ① (主体的) △イ① (思判表)</p> <p>△ウ② (主体的) △イ② (思判表)</p> <p>△ウ② (主体的) △イ② (思判表)</p> <p>△ウ② (主体的) △イ② (思判表)</p> <p>△ウ② (主体的) △イ② (思判表)</p> <p>△ウ②</p>
---	--	--	--

	1 裏山にある湧き水の水源から水を引いてくる。	○ 「裏山に水源がある」という情報から水源を探し当て、プールに水を入れる。	(主体的) △イ② (思判表)
4	1 マス釣りの開催 1 HP で報告	○ 活動の振り返りと、これからの取り組みについて考える。	△ウ③ (主体的)

6 成果と課題

本単元は地域課題を題材とした実践的・探究的な学習を通して、ESD の視点を働かせながら生徒の主体性・協働性を育成する有意義な取り組みだった。

多様性の視点では、活動班を6班に分けて計画を進めたことで、「集客を重視したい」「安全面を優先すべき」「地域の人にもっと関わってもらいたい」など、立場や考えの違いが話し合いの中で表出した。生徒同士が互いの意見を聞き合い、「それぞれの役割があるから全部必要だ」と発言する姿も見られ、多様な考えを尊重しながら合意形成を図ろうとする態度が育まれた。また、養殖場の方や地域の方と関わる中で、「自分たちだけでは気付けなかった視点があった」と振り返る生徒もおり、他者の強みを認める学びにつながった。

有限性の視点においては、新たな施設を整備するのではなく旧中学校施設を活用する計画を立てたことで、限りある資源を生かすという考え方を具体的に捉えることができた。生徒からは「使われていない場所を使う方が無駄がない」「お金も自然も大切にできる」という声上がり、資源や環境への配慮を伴った意思決定を行う姿が見られた。これは、持続可能な地域づくりを考える上で重要な学びであった。

連携性の視点では、班ごとの役割分担と情報共有を通して協力して活動を進める姿が見られた。特に、養殖場と連携した際には、専門的な助言をもとに計画を修正したり、安全面について再検討したりするなど、外部の知見を取り入れながら、より現実的な計画へと高めていく様子が確認できた。これらの活動を通して、生徒は地域の将来像を想像し、条件や影響を考えながら計画を立てる力を身に付けるとともに、話し合いや役割分担、地域の方との関わりを通してコミュニケーション力を高めていった。また、異学年での協働や地域とのつながりを実感する中で、「自分たちの活動が地域の役に立つかもしれない」という発言が聞かれ、人や地域とのつながりを尊重しようとする態度の育成にもつながった。

一方で、ESD の価値である「地域活性化の意義」や「持続可能性」について十分に理解できず、活動を「楽しいイベント」として捉えるに留まった生徒も一部見られた。

このことから、活動後の振り返りにおいて、「なぜこの取組が地域の未来につながるのか」「自分たちの判断はどのESDの視点と関わっていたのか」を言語化させる場を、より意図的に設定する必要がある。

<関連する学習内容>

キャンプ場やカフェ
もあれば家族で使う
ことができる！

社会科
『地域課題理解・地域資源の活用』
過疎化や働く場の減少など、地域が抱える社会的課題について調べ理解を深める。旧中学校を地域資源として捉えその有効活用を考えることで地域づくりの視点を学ぶ

理科
『生物・生態の理解』
マスの生態や成長、適した水温や水質などをしらべ、自然環境と生物の関係について考える。

自然環境や水資源を
生かしたマス釣り場

総合的な学習の時間
『芋蔓でクリスマスリース』
公民館活動の野の花クラブさんと一緒に活動した。小学部が作ったさつまいもの蔓を乾燥させ、クリ

総合的な学習の時間『福住学』
「地域の活性化を促す『マス釣りプロジェクト』」

- 主に養いたい ESD の資質・能力
未来像を予測して計画を立てる力
地域の将来像を想像し、その実現に向けて条件や影響を考えながら計画を立てる。
- コミュニケーションを行う力
話し合いや役割分担、ゲストさんとの関わりを通して、自分の考えを伝え、他者の意見を尊重しながら協働するコミュニケーション能力を育成する。
- つながりを尊重する態度
地域や仲間との関わりを通して、さまざまな人・地域・自然とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。
- 進んで参加する態度
自分の発言や行動に責任を持ち、話し合いを通して、自分たちができることを考えたり、学んだことを地域や他学年に発信したりする。
- 主に育てたい ESD の価値観
人権文化を尊重する
多様な生背景を持つ生徒同士が意見を尊重し合いながら協働する学習を通して、人権を大切にする態度を育むことができた。また、地域の歴史や自然、旧中学校の施設を理解し、その価値を活かそうとする活動を通して、地域文化を尊重する意識を高めることができた。
- 幸福感に敏感になる 幸福感を重視する
仲間と協力して地域のために行動する経験を通して、達成感や自己有

地域活性化のために何ができる

技術科
小学部と合同
『シイタケ栽培』
クヌギの木に穴を空け、シイタケの植菌をする。卒業学年で収穫する。
木の再利用。

家庭科
『地産地消！ひむろんドーナツ』
地域由来の福住の大和茶と、凍り豆腐（高野豆腐）を使ったドーナツ作り（先輩たちが考えた）をして、地域の人との交流を深める。

学年の学習終了時に目指す生徒像「地域の活性化を促す『マス釣りプロジェクト』」
 地域の良さや課題を自分事として捉え、地域資源を生かしながら、仲間や地域の人と連携して課題解決に主体的に取り組む生徒。



<関連する学習内容>

地域活性化のために何ができるか考え行動する

社会科

G7『身近な地域の調査』
 G8『日本の地域的特色と地域区分』
 G9『私たちと地方自治・持続可能な社会の実現』

過疎化や働く場の減少など、地域が抱える社会的課題について調べ理解を深める。旧中学校を地域資源として捉えその有効活用を考えることで地域づくりの視点を学ぶことができる。

天理市内の給食のメニューになった！

先輩たちが考案「ひむろんドーナツ」

家庭科

G7『食事の役割と中学生の食生活』
 G8『食品の選択と調理』
 G9『消費生活と環境』

地域由来の福住の和茶と、凍り豆腐(高野豆腐)を使ったドーナツ作りで地域の人との交流を深める。

地域の方も一緒に！
2年後収穫します。

技術科

G7『ものづくりの技術・木材加工』
 G8『生物生産・環境利用』
 G9『環境と技術』『持続可能な社会と技術』

小学生と合同でしいたけの栽培。地域の間伐材であるクヌギの木に穴を空け、植菌をする。

→

→

→

キャンプ場やカフェもあれば家族で使うことができるね！

総合的な学習の時間『福住学』
「地域の活性化を促す『マス釣りプロジェクト』」

○主に養いたい ESD の資質・能力
未来像を予測して計画を立てる力
 地域の将来像を想像し、その実現に向けて条件や影響を考えながら計画を立てる。
コミュニケーションを行う力
 話し合いや役割分担、ゲストさんとの関わりを通して、自分の考えを伝え、他者の意見を尊重しながら協働するコミュニケーション能力を育成する。
つながりを尊重する態度
 地域や仲間との関わりを通して、さまざまな人・地域・自然とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。
進んで参加する態度
 自分の発言や行動に責任を持ち、話し合いを通して、自分たちにできることを考えたり、学んだことを地域や他学年に発信したりする。

○主に育てたい ESD の価値観
人権文化を尊重する
 多様な生背景を持つ生徒同士が意見を尊重し合いながら協働する学習を通して、人権を大切にする態度を育むことができた。また、地域の歴史や自然、旧中学校の施設を理解し、その価値を活かそうとする活動を通して、地域文化を尊重する意識を高めることができた。
幸福感に敏感になる 幸福感を重視する
 仲間と協力して地域のために行動する経験を通して、達成感や自己有用感を味わい幸福感を高めることができた。また、地域とのつながりを実感することで、安心感や将来への希望をもつ学びになった。

理科

G7『植物・動物の成長と環境』
 G8『生物の多様性と生態系』
 G9『自然環境と人間活動』

自然環境や水資源を生かしたマス釣り場

マスの生態や成長、適した水温や水質などをしらべ、自然環境と生物の関係について考える。

小学生が植えたさつまいもの蔓を使ったよ！

総合的な学習の時間
『芋蔓でクリスマスリース』

公民館活動の野の花クラブさんと一緒に活動。さつまいもの蔓を乾燥させて丸め、クリスマス風にドライフラワーなど飾った。